

2017年邦人被害概況

1 邦人被害の特徴

(1) 全体的特徴

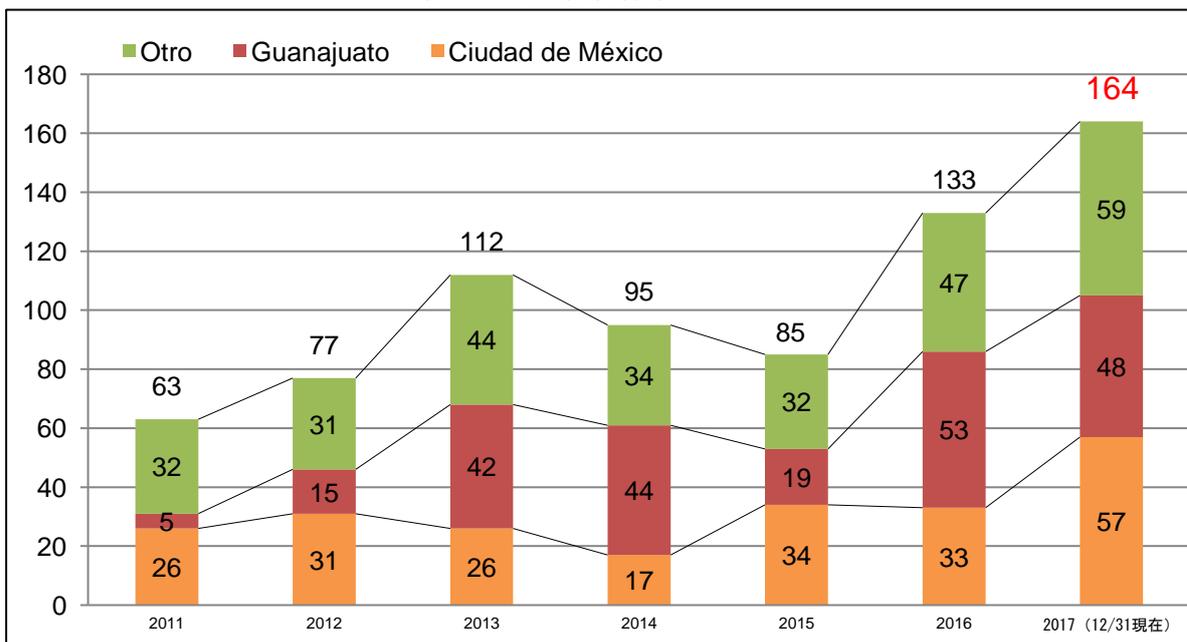
ア 2017年、在メキシコ日本国大使館及び在レオン日本国総領事館に届けられた邦人被害の犯罪発生件数は、164件であった。2016年の132件と比較し、24%増加した。被害の多くは、窃盗（116件・約70%）で、そのうち車上ねらいが41件、スリが33件、置き引きが23件、侵入窃盗が14件となっている。特に、スリの多くがメキシコ市（24件・約72%）で発生しているが、メキシコ市内において車上狙い被害は発生しておらず、被害の多かった州は、グアナファト州21件、アグアスカリエンテス州7件、ケレタロ州6件の順となっている。

イ 強盗事件については37件発生、強盗致傷に至ったケースが12件発生した。強盗犯に抵抗し、ナイフで負傷したり、逃走を試みたため発砲されるといったケースがあった。強盗事件等に遭った場合は、抵抗する・大声をあげる・逃げる等、犯人を刺激するような行動を行った場合、身体に危害を加えられる可能性が非常に高いため、身体の安全を最優先に行動する必要がある。

ウ 発生地域別では、メキシコ市が57件（前年比24件増）と、大きく増加し、特に、強盗事件も19件発生したほか、グアナファト州における被害は48件（前年比5件減）と、前年比でやや減少した。また、キンタナ・ロー州における被害が13件（前年比7件増）、ケレタロ州11件（前年比9件増）、アグアスカリエンテス州10件（前年比1件増）と、例年よりも増加がみられた。

メキシコ市では、スリが24件と最も多く、2016年の国内全体におけるスリ被害の約72%がメキシコ市内で発生した。主に、地下鉄等公共交通機関における被害が多く、注意をしても、前後から犯人が被害者を挟み込んだり、後ろから突然押され、バランスを崩した隙にポケットから財布等を窃取されるような被害もあった。公共交通機関の利用については、利用時間帯・路線によっては特に注意が必要である。また、昨年から引き続き同一犯と思われる詐欺被害が定期的に発生している。

表1（邦人被害件数）



(2) 地域別特徴・傾向

ア メキシコ市

- a 前述のとおり、メキシコ市において 57 件（前年比 24 件増）の邦人被害が発生した。
被害の内訳は、強盗 19 件（路上強盗 13 件、住宅強盗 1 件、その他 5 件）、恐喝 1 件、窃盗 34 件（スリ 24 件、置き引き 7 件、事務所荒らし 1 件、引ったくり 1 件、その他 1 件）、詐欺 3 件であった。
- b 強盗被害は、いわゆる「首締め強盗」と言われるように、後方から突然首を絞められ、気を失っている間に所持品を強奪されるものや、渋滞中の車両に対するけん銃使用による強盗、路上強盗などがみられた。
- c 窃盗被害は、前述の通り地下鉄等公共交通機関の車内におけるスリ被害が多くを占めたほか、歩行中に突然水か泡のような液体をかけられ、気を取られている最中に所持品を窃取されるといった手口もみられた。
- d 昨年に引き続き、自称弁護士の米国人による詐欺（未遂）被害が 3 件発生した。犯人の手口は、「スリ（窃盗）被害のため現金をなくしたが、重要な会議のためすぐに米国に帰国する必要がある。妻から送金させるのでお金を貸して欲しい」といったものであり、英語が話せる外国人を狙って犯行に及んでいるとみられている。

イ その他の地域

- a 発生地域別では、グアナファト州 48 件、キンタナ・ロー州 13 件、ケレタロ州 12 件、アグアスカリエンテス州 10 件、メキシコ州 4 件、サンルイスポトシ州 3 件、ハリスコ州、チアパス州、ヌエボ・レオン州、プエブラ州、タマウリパス州各 2 件、バハ・カリフォルニア州、コリマ州、イダルゴ州、ミチョアカン州、オアハカ州、シナロア州、ベラクルス州、ユカタン州各 1 件となっている。
- b メキシコ市及びバヒオ 6 州（グアナファト州、アグアスカリエンテス州、ハリスコ州、ケレタロ州、サンルイスポトシ州、サカテカス州）を除く地域における被害は 33 件であり、強盗 5 件、脅迫 2 件のほか、窃盗被害が 26 件であった。特に、カンクン発着の長距離バス車内における置き引き被害及びスリ被害が立て続けに発生している。

2 邦人被害件数

(1) 被害届出件数

164 件（前年比+32）

本集計は、当館に届け出があった件数であり、大きな被害が無かった場合等は大使館に被害の届け出を行わない可能性もあるため、実際の被害件数はこれより多いものと考えられる。

(2) 犯罪手口

強盗	37 件 (+17)	※凶器使用 28 件 (うち、けん銃使用 25 件)
暴行傷害・恐喝	4 件 (-2)	
詐欺	5 件 (+2)	
窃盗	116 件 (+13)	
※うち、車上ねらい	41 件 (+2)	
置引き	23 件 (+8)	

空き巣等侵入窃盗	16件 (+2)
すり	33件 (+10)
ひったくり	1件 (-6)
窃盗その他	2件 (-3)

強盗被害 37 件は、多くの場合凶器を使用（けん銃使用 25 件、刃物使用 3 件）したものであり、日中 11 件、日没後 26 件と、夜間に多く被害が見られたが、昼間の被害も発生している。更に、被害者が何らかの怪我を負った事件は 12 件であり、声を上げたり、急な動作をするなど明確に抵抗していなくても、犯人に危害を加えられ、重傷を負う事件も発生していることから、不幸にして強盗の被害に遭った場合は、落ち着いて犯人の要求に従い、急な動作（声を上げたり、急に立ち上がるなど抵抗したとみなされるような行為）を避けるなどの注意が必要である。

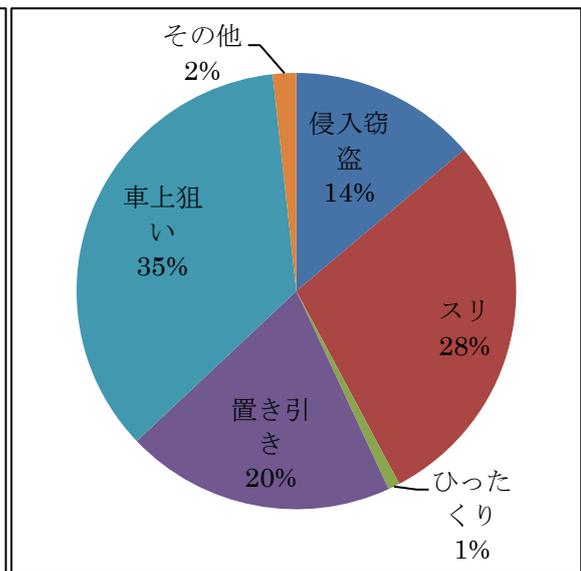
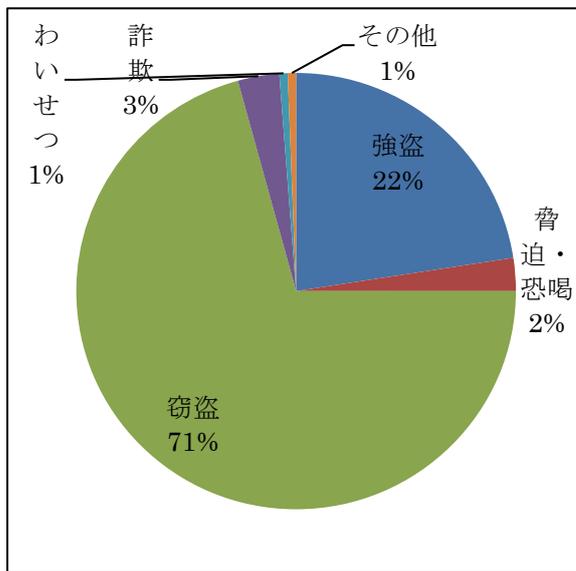


表 2 (罪種別)

表 3 (窃盗の手口別)

(3) 発生場所別

路上	49件
駐車場	41件
飲食店等店内	25件
空港	2件
バスターミナル	2件
地下鉄車内及び駅構内	11件
バス車内	10件
メトロバス車内	3件
銀行・ATM	1件
自宅	17件
その他不詳	3件

(4) 被害者別（複数被害者がいる場合もあるため、被害件数とは一致しない）

長期滞在・永住者 109名

短期渡航者（観光） 46名

短期渡航者（出張） 10名

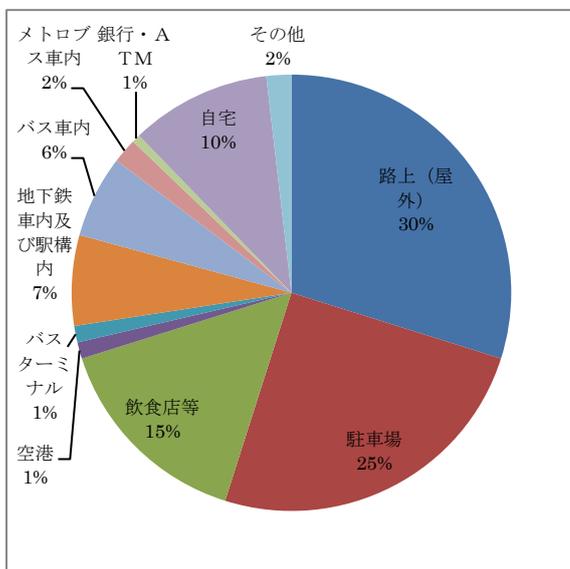


表4（発生場所別割合）

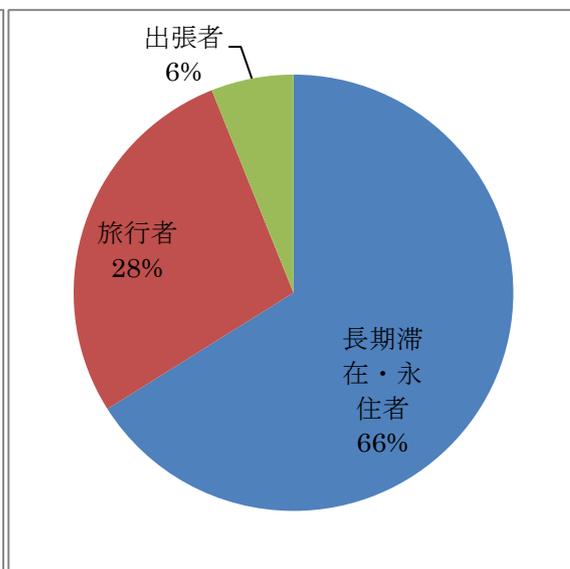


表5（滞在形態別割合）

被害の詳細については、[「邦人被害一覧」](#)をご参照ください。

以上